

取材日：2015年7月29日



関節リウマチ



淀川医療圏

## リウマチ医療の最前線で病院と診療所が連携し、 整形外科とリウマチ膠原病内科が協働する。

### Point of View

- ① 整形外科とリウマチ膠原病内科が病院内で協力、合同で連携の会を実施
- ② 病院の各診療科の医師が診療所を訪問してまわり、強い連携関係を築く
- ③ 病院と診療所がそれぞれの役割を果たすテラーメイドの医療で寛解をめざす

淀川キリスト教病院  
整形外科部長

高松 聖仁先生

淀川キリスト教病院  
リウマチ膠原病内科医長

秦 健一郎先生

淀川キリスト教病院  
地域医療連携センター係長

大園 達郎氏

浜田整形外科  
院長

濱田 泰彦先生

うらいさみ整形外科  
院長

浦勇 武志先生

### 病院内の2科が協働して 病診連携の会を立ち上げる

淀川キリスト教病院にリウマチ膠原病内科が開設されたのは、2012年夏の病院新築移転時である。これを契機に、同院の整形外科とリウマチ膠原病内科が合同で開催する病診連携の会「淀川リウマチカンファレンス」(以下、連携の会)がスタートした。整形外科部長の高松先生が当時を振り返る。

「整形外科では当時も今も、週1回の専門外来で関節リウマチ(以下、RA)を診ています。現在は、手術が必要な方と術後の経過観察が必要な患者さんが対象ですが、以前は診断がついていない方や、軽度の患者さ

んまで受け入れており、いずれパンクするのは目に見えていたと思います」(高松先生)

そんな折、リウマチ膠原病内科が開設された。前任の整形外科部長は好機を逃さず、院内での外科と内科の協力体制に加え、地域の診療所との連携を視野に入れた連携の会を提案したようだ。以来3年を経た今、

連携の会に参加しているリウマチ膠原病内科医長の秦先生は語る。

「大きな会が年2回、小さな集まりが3~4ヵ月に1~2回のペースで開催されていますが、院内はもちろん、地域の診療所の先生方も含めて、RA診療にたずさわる医師たちが直接、顔を見せながら話し合うのは本当に有意義だと思います」(秦先生)



左から高松先生、秦先生、大園氏、濱田先生、浦勇先生

院内では、整形外科とリウマチ膠原病内科の間でコンサルテーションが行き交っているという。

「手術の適応の判断に迷ったときはすぐにアドバイスをいただきます。逆に肺機能に問題があったり、感染症が心配される患者さんは早めにこちらで引き受けています」(秦先生)

リウマチ膠原病内科の設置が整形外科のピンチを救い、現在、RA患者を受け入れる同院の体制は万全の様子だ。

### 連携センターが主導し 病院医師が診療所を訪問

連携の会の開催にあたり、外部へのインフォメーションは、地域医療連携センターが担っている。同院は登録医制度を設けているが、「年2回行っている連携の会には登録医の先生方のほかにも、広く参加を呼びかけています」と、地域医療連携センター係長の大園氏が言う。

「ただ、年に2度の開催では少ないですし、両方の会に参加いただける方も少数でしょう。そこで、もっと多くの先生方にお会いする機会をつくる必要性を強く感じていました」(高松先生)

そんな病院医師の思いに大園氏が応えた。地域医療連携センター担当となって2年目だが、まずは同センターの担当者が地域の診療所を知っておくべきと、全施設を訪ねてまわ

【資料1】

### リウマチ膠原病内科における外来患者の診療実績

	2012年度	2013年度	2014年度
関節リウマチ	96	116	184
全身性エリテマトーデス	18	21	39
強皮症	20	29	44
多発筋炎／皮膚筋炎	8	8	17
混合性結合組織病	3	5	11
血管炎症候群	8	17	25
シェーグレン症候群	12	22	37
リウマチ性多発筋痛症	13	22	38
ベーチェット病	3	8	7
成人Still病	2	4	6
乾癬性関節炎	—	3	8
分類不能関節炎	19	—	—
反応性関節炎	9	—	—
関節痛(変形性関節含む)	35	—	—
不明熱	20	—	—
強直性脊椎炎	—	2	6
その他(上記以外)	55	53	67
合計	321	310	489

った。そのうえで、再度の挨拶まわりに各診療科の医師を同伴するかたちにしたのは、快挙と言べきだろう。血の通った病診連携の成立に多大なる寄与をしたのは間違いない。

「最初のうちは戸惑いました。私にとっては、年齢的にも経験の面でも先輩に当たる先生方ばかりで、何を話していいのかもわからず——。でも、続けているうちに、それぞれの先生のお人柄や診療のスタンスがわかり、この診療所とはど

んな連携ができるだろうかなどと考えるようになりました」(秦先生)  
「病院から足を運ぶからこそ得られる理解や信頼もあると思います。整形外科だけでなく、秦先生と一緒にうかがうときもあります」(高松先生)

### 専門医も、非専門医も 安心して診られる体制

地域医療連携センターのデータによれば、RAに関する紹介元は、整形外科診療所より内科系診療所のほうが多い。「RAらしい。RAかもしれない。よくわからないので専門医の診



断を仰ぎたい」という紹介だ。

整形外科診療所に関しては、リウマチ専門医かどうかによって紹介のタイミングが異なる。うらいさみ整形外科院長の浦勇先生は、診ていたRA患者の数は多くなかったが、連携の会への参加をきっかけに興味を深まり、次第に紹介数が増えていった経験を持つ。

「RAの診断や治療は、この5年ほどの間に飛躍的に進歩し、かなり専門的な知識を要する分野になっていきます。私は専門的に診ているわけではないので、RAを疑えば、できるだけ早く病院に紹介するよう心がけています。最初の段階で治療戦略を立てていただき、安定期になったら逆紹介していただく。その後、紹介と逆

紹介を繰り返しながら寛解をめざします。非専門医でも患者さんをしっかり治療できる点で連携は貴重です」(浦勇先生)

浜田整形外科院長の濱田先生は、もともと関節外科が専門で、サブスペシャリティとしてリウマチ専門医である。

「淀川キリスト教病院とのRA分野での連携関係は、リウマチ膠原病内科がまだなかった8年ほど前に、先々代の整形外科部長から『コントロールしやすい患者さんだけでいいので診てもらえないか』と声をかけていただき、何名かの逆紹介をお引き受けしてからです」(濱田先生)

以降、多数の患者を同院との間で紹介・逆紹介してきたとのこと。RAの診断も治療もできる濱田先生の場合、連携の力を実感するのはどのようなときなのだろう。

「手術が必要な場合は、迷わず紹介します。また、診断の難しい症例をお願いするケースも多いですね。近年、RAではかなり強い薬物治療をしますので、確証を持ってない限り治療には踏み切れません。もしかするとRA以外の膠原病かもしれないと疑うような症例については、リウマチ膠原病内科に紹介して確定診断をしていただきます」(濱田先生)

### 医師が変わる不安を 信頼関係を示して払拭

今春から、淀川キリスト教病院の整形外科は完全予約制となった。RAについては、明らかに手術適応、あるいは手術が必要かどうかギリギリのラインで迷うような患者を中心に診療している。

「基本的に診断は診療所の先生をお願いしたいと考えています。どうしても診断に迷った場合は、整形外科で

【資料2】

### 「淀川リウマチカンファレンス」の案内

**第6回淀川リウマチカンファレンス**

拝啓  
寒冷の候、先生方におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。  
さて、第6回淀川リウマチカンファレンスを下記の要領で開催いたします。リウマチ診療  
に関心の深い診療所の先生方と病院勤務医との交流を深める場として、ご活用いただければと存じます。万障お繰り合わせの上、ご参加いただけますようお願い申し上げます。  
敬具

書記

日時：平成27年3月7日(土) 16:00~18:05  
場所：エコルテホール  
大阪市北区芝田 1-16-1 阪急電鉄本社ビル1階 Tel:06-6377-2100  
会費：1,000円(医師のみ)

プログラム

座長：淀川キリスト教病院 整形外科 部長 高松 聖仁先生

講演1 (16:00~16:30)  
「 関節リウマチの治療と合併症の管理 」  
淀川キリスト教病院リウマチ・膠原病内科 磯田 健太郎先生

講演2 (16:30~17:00)  
「 ヨーロッパにおける関節リウマチ治療最前線 」  
大阪市立大学大学院医学研究科 整形外科 病院講師  
淀川キリスト教病院リウマチ外来担当 多田 昌弘先生

休憩 (17:00~17:05)

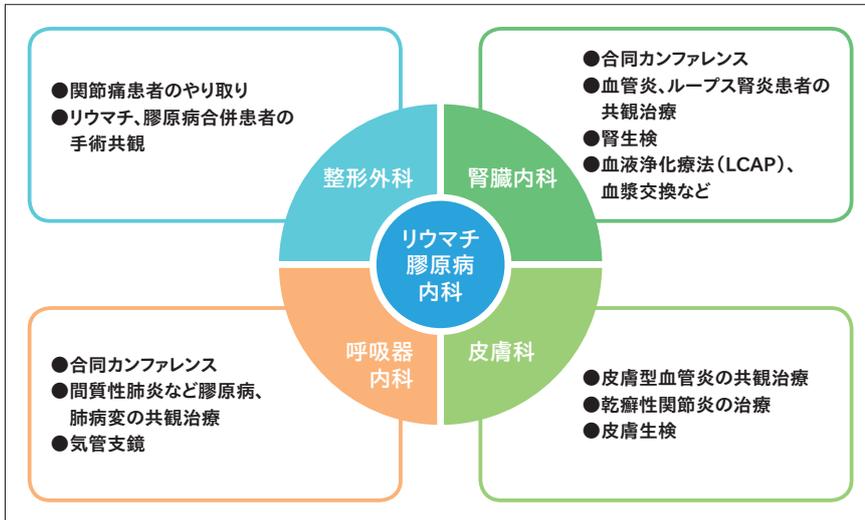
講演3 (17:05~18:05)  
「 乾癬性関節炎の最近の話題 」  
大阪市立大学大学院医学研究科  
整形外科 准教授 乾 健太郎先生

日整会教育研修会【G、R】(1単位/1,000円)  
日本リウマチ学会認定教育研修会(2単位/2,000円)  
日本リウマチ財団教育研修単位(2単位/2,000円)  
リウマチケア看護師(2単位/1,000円)・リウマチ財団登録薬剤師(2単位/1,000円)  
尚、当日意見交換会をご用意させていただきます。マイカーにてご来場の際には意見交換会での飲酒をお控え下さいますようお願いいたします。

共催/淀川リウマチカンファレンス・田辺三菱製薬株式会社

【資料3】

淀川キリスト教病院におけるリウマチ医療連携



はなくリウマチ膠原病内科への紹介をお願いします」(高松先生)

連携の構築が進むにつれ、紹介は順調に増えてきているが、逆紹介の数はまだ思うように伸びていない。

「RAの患者さんは、疾患の特性からか、同じ医師に診てほしいとの希望が強いからです」(濱田先生)

「症状が全身に出てたくさんの訴えがあり、医師が変わるとそれをまた最初から全部説明しなくてはならないと思われるのでしょう」(高松先生)

おそらく、信頼関係のできた医師に診療を継続してほしいという患者の気持ちから、逆紹介の数が伸び悩んでいるようだ。現状の打開には、医師が変わることへの不安の払拭が必要だろう。

「連携の会や、病院の先生方の診療所訪問などの機会を通じ、専門医の先生方の人間性や優秀さがよくわかり、私たちの要望もお話できて、信頼関係は確実に厚みが増しています」(浦勇先生)

ということならば、あとは患者、市民の方々に、連携により病院と診

療所の間に構築された厚い信頼関係をしっかりと示せば安心を提供できるはず。実は、淀川キリスト教病院では、すでに広報活動がスタートしていた。

**治療のゴール設定は高く  
寛解が求められる時代に**

「私たちは、院内で市民公開講座を開催しており、東淀川区医師会が主催する公開講座もあります。今後も、機会あるごとに市民の皆さんには連携の存在を広報していきたいと思えます」(高松先生)

「2週間に1回のペースで、院内のメディカルスタッフのための勉強会も行っています。登録リウマチケア看護師や薬剤師、リハビリテーションにかかわる理学療法士や作業療法士などに向けた、RAの診断から治療、ケア、手術、リハビリまで、疾患のすべてを学ぼうという会で、各分野の専門の方が講義をします。また、院内での各科連携を強化するために合同カンファレンスなども行ってい

ます。もちろんRAのチーム医療がねらいのひとつです」(秦先生)

高松先生は、RAを「既存の連携パスのようなツールには馴染みにくい疾患」と言う。

「患者さん一人ひとりに合わせたテーラーメイドの医療が求められる疾患だからです。しかも新薬がどんどん出てくる中で、治療する側へのゴール設定はかなり高くなっています。寛解までもっていかないと許されない時代なのです」(高松先生)

だからこそ、病院と診療所、整形外科とリウマチ膠原病内科、医師とメディカルスタッフなど、それぞれのスムーズな連携を実現すべく皆が知恵を出し合い、汗を流す。

「かかわるすべての医療者が自身の立場で果たすべき役割を果たし、お互いにきちんとしたコミュニケーションをとれるような関係をつくる。それこそがリウマチ医療連携の本質だと思います。本質からぶれず、皆さんのお力を生かしながら、これからも有益な医療連携を推し進めていきます」(高松先生)

淀川キリスト教病院

〒533-0024  
大阪府大阪市東淀川区柴島1-7-50  
TEL: 0120-364-489

浜田整形外科

〒533-0005  
大阪府大阪市東淀川区瑞光1-12-12  
シセイビル1F  
TEL: 06-6321-7103

うらいさみ整形外科

〒532-0005  
大阪府大阪市淀川区三国本町3-37-35  
ヴェール阪急三国3F  
TEL: 06-6393-0300